

☆わたしの意見

神戸、この素晴らしいふるさとを

荒川克郎

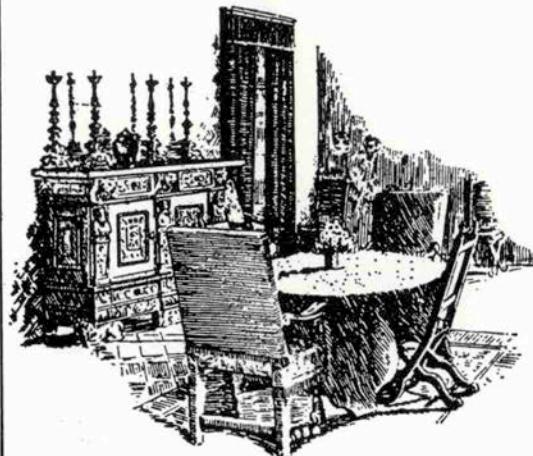
〈神戸新聞編集局長〉



午前零時、停泊している内外大小さまざまな船が一斉に汽笛を鳴らして国際都市神戸の新年は静かに海から明けて行く。その低く力強いボーッという協和音が坂をのぼり、平野の「祥福寺」や摩耶山の「忉利天上寺」のゴーオンゴンという除夜の鐘と絶妙のハーモニーを響かせて背山にこだまするところ、神戸っ子たちは「楠公さん」や「生田さん」「長田神社」に初詣して明るい年詞を交わす。新旧の不思議な調和、神戸ならではの素晴らしい迎春シンフォニーである。

三ヵ日が過ぎて四日を迎える。港は一転、静から動へたくましい活動を開始し、刺激されるように陸上では威勢のいい初荷の車が疾走しはじめめる。人々は「今年も平和で豊かな一年でありますようにー」と念じながら生活のリズムを奏でる。神戸っ子は開放的で屈託がない。だから『今年がポスト日中の曲がりかどを回って内外ともに未知の領域に挑む年であり、外交面でも内政面でも、精神的にも物質的にも本当の“日本改造”が可能かどうか』既成概念を越えて賢明に対処できるかどうかの年だ』といつても別に驚くようなことはない。神戸港の水は七つの海に通じている。世界の鼓動は神戸っ子の鼓動でもある。スマートなコスモポリタン神戸っ子は主体性の塊りだ。これをはぐくみ育てたものーいうまでもない『ふるさと神戸』だ。このごろ「ふるさと指向の時代」と盛んにいうようになったが、神戸っ子にとってこんな言葉はマスコミの増幅作用ぐらにしか響かない。しかし神戸っ子は考える『ふるさと神戸』は今まで神戸っ子を育ててくれたが、そろそろ本気になつて今度は自分たちが新しいよりよい『ふるさと神戸』づくりに乗り出す番だな』と。『ふるさと』は幾つになつても『おふくろ』みたいなものだ。しつとりとして、おおらかで、やさしく温かいものー神戸っ子たちのかけがえのない『ふるさと』。新しい神戸は市長の宮崎さんがうたい上げた「人間環境都市宣言」にうまく集約されている。実現めざして神戸っ子諸公、一つの輪になろうではないですか。

謹 賀 新 年



設計・創作

永田良介商店

神戸市生田区三宮町3丁目 大丸前 TEL 神戸(391)3737
(代表)

東京店・東急百貨店 {日本橋店内6階 TEL 03(221)0511
(本店(渋谷)7階 TEL 03(462)3180

工場 神戸市垂水区多聞町小東山975-35

神戸木工センター TEL (078) 706-5005 (代)

賀 正



北 村 真 珠 店

元町通2丁目60 TEL. 331-0072

隨想三題



書／広津雲仙

三部門である、その会場が「さんちかギャラリー」である。大変失礼だが極めてちゃちいわざるをえない。いやしくも市が主催するなら、もう少しなんとかならぬのかと思った。もちろん主旨は労働者を対象としてあるので限られるかも知れない。

たわごと

廣津 雲仙

（書家・中京大教授）



筆で書くのが本職で活字になる文章は苦手、何か隨筆を送れとの注文にとまどっている。

四十年、「筆にあけて筆に暮れ」というと、ちと大袈裟になるが、サラリーマンと二足の草鞋を履いて半生を過したのである。神戸に住みついて三十八年、会社を退いて十一年、大阪通いだった私は神戸にゆかりのことを書かされるのは無理を承知で書くことにし

くのだろうか。平清盛の頃から和田岬の港が作られ、江戸末期には貿易港として日本の窓口として繁栄したのである。商業優先か、なるほど、貿易は盛んであり国際都市として栄えて来たし又これからも栄えるにちがいない。ところが文化、芸術の面は何かおきぎりにされている感が深い、例えば先ず美術館らしいものがない、先年やっと県立の美術館が出来た。しかしこれとても規模は極めて小さい。

しかも近代美術館にしては大衆になじまないようなところもある。神戸市はなぜもっと文化活動をし市民の情操教育をやらないのかと常日頃思うのである。大都市なるが故に仕事は数限りないと思う。しかしそれとこれとは別に考

えて欲しいのである。

この間神戸市勤労者美術展なるものを見た。絵画、写真、書道の

何かもと強力に文化面の施策にと願わざるをえなかつた。何だか作家が住みにくい環境に置かれているかに錯覚さえ感ずるのである。その証拠に有名作家が少ない。

皆が中央へ出て活動する、といった具合、ただし書道においてはついこの間芸術院会員になられた、安東聖空先生を初め先覚者があり、日本的な書道を主体に、漢字、前衛と盛んな土地である。いささかわが田に水を引くようであるが、戦前からこのような先覚者によつて書道兵庫の名を天下にほしいままでしたのである。戦後いち早く神戸を中心書道協会なるものを設立し、神戸新聞社の後援を得て作家自体の切磋琢磨の場としての活動が実を結んだといえると思う。書道人口はますます増加している、実はこれらの作品

を陳列する場所がなく、近代美術館で二回、三回と分割陳列のやむなきあります。

このような状態を早く解決して頂きたいものであると痛切に思う。前述の労働者美術展しかり、もと市民が美意識を燃やし、豊かな生活と、うるおいのある情操教育の出来る場が欲しいのである。

上野の美術館での日展など門前「市」をなとすといった表現がびたりするような行列である、神戸っ子にもあんな情景が欲しいなあ、と思うのはあなたがち私一人ではないようだ。

三宮センター街は流行の先端をゆくとか。なるほど、それも結構人心の安らぎに情操教育の強化が望まれる神戸市ではないか?

神戸を愛する一人のぐちかも知れない。

正月の民俗

加藤 隆久

（生田神社宮司）



正月いうたら ええもんや

雪より白いママ食べて

割木のようなどそえて

おかん（母）おとつたん（父）
で（錢）おくれ

何買うのとりもち買うて餌こう
おかんのかアみ につちやくち
や

「兵庫のわらべうた」より――

昔はこんなわらべうたがはやつた。しかし、今の物のあり余つた豊かな時代の現代っ子には、こうしたわらべうたもピンとこないであろう。日本列島は次第に近代化都市化されていくにしたがって、日本全国の正月行事としての古い習俗や風習もだんだん影をひそめて行くのに何ともさびしい気がする。

私は数年前から神戸における正月の習俗を調べているが、神戸にも、兵庫の旧家や花隈などには、いまだにおもしろい正月の習俗が残っているのはうれしいことである。

この棚にはシメ縄を飾り、もう洗米、酒、塩などを供え、その年の「あき」の方へ回転しておき、この方角の神まいりが、いわゆる「恵方まいり」といわれるものである。恵方の社寺には幸運を求めてたくさんの人達が参詣する。今でも兵庫の網谷などでは、この棚をまつて正月を迎えている。

昔、兵庫の神田兵右衛門さんの家の歳棚は一・二メートルくらいの長方形の大きな棚で、天井から歳棚といつもの飾る。これは歳徳の神をまつる棚で、どの方向へも回転できるよう作られている。歳徳神とは、正月の一定期間家々にまつる神で、正月さま、年神さんともいわれ、一年中の万徳神を司る神であり、また穀物の守護神とされている。本居宣長は歳

（年）すなわちイネの守護神が歲徳神であることを示唆しており、柳田国男も一年のはじめに家々を訪ねて子孫のまつりを受け、イネの豊作を約束する祖先神であることを説いている。つまり、年の始めにイネやその他の財物をたずさえて来る祖先神のことをいうのである。

この歳徳は「あき」の方角にあり、恵方ともいわれ、その年々によって方角を異にしている。今年の恵方は巳午の間で、南南東の方角である。

この棚にはシメ縄を飾り、もう洗米、酒、塩などを供え、その年の「あき」の方へ回転しておき、この方角の神まいりが、いわゆる「恵方まいり」といわれるものである。恵方の社寺には幸運を求めてたくさんの人達が参詣する。今でも兵庫の網谷などでは、この棚をまつて正月を迎えている。

昔、兵庫の神田兵右衛門さんの家の歳棚は一・二メートルくらいの長方形の大きな棚で、天井からつるされ、奥の正面には神像がまつられ、奥の正面には神像がまつられ、その前の真中に櫛を立てゴボウシメ縄を飾り、四方にサカキ、ユズリハを置いて塩もちを供えたそうである。

る。花隈では、除夜の鐘の鳴る少
し前、神棚や仏壇に灯明をあげ、
恵方の方を向いて願いごとを念じ
ながら年越しそばを食べる。そば
を食べ終るや、いつさい物を言わ
ずに石の鳥居のある神社へ無言の
初まいりをする。

まず、生田神社をかわきりに、
三宮、湊川、七宮、柳原蛭子、長
田、八宮の七社を巡拝する。この
無言まいりは三年つづけないとこ
利益がないといわれている。今で
はタクシーで巡拝しているが、一
番困るのは運転手に物の言えない
ことだそうである。

ともあれ、このエキゾチックで
ハイカラな神戸の町にも、こうし
た日本古来のゆかしい民俗が残っ
ているのはうれしいことである。

はなのすきなうし

平松 治子

〔青玄俳句会同人〕



「鼻寄せくる 乳足りの仔牛

無人岬」去る五月、俳句と写真取
材のため五島列島を周遊した青玄
主幹伊丹三樹彦の作品。韓国も真

近い朝鮮海峡の怒濤を真下に見る
崖つづきの牧場。都會好きの若者
に去られたおきまりの過疎地。午
後の陽を浴び勿体ないような広さ
の土地を独占してちょっと尾を振
つてみせたりする仔牛。でもいく
ら満腹といつてもこう人っ子ひと
りいないのではやっぱり淋しいら
しくカメラをいくつもぶら下げ時
々メモなど取つて風変りなおじ
さんにも親しみをこめてすり寄
つてくるのも無理からぬこと。
「特急と行き交う牛の眼 れく
く寒く」(治子) ことほど左様に
私達の住む都会の周辺では殆んど
見られなくなつた牛。最近は貨車
の牛ともすれちがうのは稀です。
勝手の違つた場所で戸惑いつつも
こちらからの凝視を知つてから知ら
ずか何とも言えぬ柔軟な親しみを
こめたまなざしがいつも心に灼き
つくのです。いかに人類の發展へ
貢献するためとはいえ彼をあんな
状態にはめこむのはとても後めた
思いに駆られます。でもずっと
前、山を崩した赤土をのせた荷車
を引きつつ何度も鞭打たれていた
牛の眼も幼な心に忘れられません
が、ダンプのお蔭で彼にも解放時
代が訪れたというべきでしようか
「発情の牛呼ぶ 腰板 手で打
つて」(藤井美智男) 三木市郊外
から神戸へ通勤。——のつけから
特異な対象で読者の興味を誘發。

「鼻寄せくる 乳足りの仔牛
無人岬」去る五月、俳句と写真取
材のため五島列島を周遊した青玄
主幹伊丹三樹彦の作品。韓国も真

「腰板 手で打つて」は牛と飼主と
の最高の愛情伝達を示す——とい
う伊丹三樹彦の推薦句。牛と暮し
を共にするのは傍で見る程決して
樂ではなく大へんなことでしょ
うが、殺伐とした都會の箱のような
住まいで退屈しているよりは、動
物とも心を通じ合えるような人間
味豊かな生活をなるべく続けてほ
しいと願わざにはいられません。
「諳んずる童話 しぐれる闘牛
場」(治子) 日本の牛に比べてス
ペインの牛は全く氣の毒です。い
かに見世物とはいえ残酷そのもの
で、例えば昔の日本髪にさされた
かんざしのようにあらかじめ牛の
背中に一メートル弱の槍を四、五
本突きさし既に血が噴いている処
へかっこいい闘牛士が最後の止
どめだけ差すという次第で人間の
卑劣さを丸出し。ああいうことに
熱狂する西歐人と日本人のちがい
は或いは伝統的な食物の関係では
ないかと思つたり——ひつそり牧
場で暮したいフェルジナンドとい
う「花の好きな牛」の物語ばかり
思い浮び時雨を幸い早々に闘牛場
を引き上げました。しかし闘牛士
の美男ぶり、夜のフランコの黒
眼、黒髪の美女ぶりは三年経つた
今も鮮やかに思い出されます。
さて丑年に当り、ねばり強く着
実にベースを調べて自分の勉強に
励む決心です。

毎月一回の写生会を行なつて、る美人画を描く集い、明美会。

中心になつておられる寺島紫明先生の「明」をいただき、「美」は、美人画の集い、または美しい集いの意をこめて名称をつけたといふ。

この会の歴史は古く、発生した

毎年十一月に神戸に於て、作品發表の展覧会を催すのが恒例となつた。

会を重ねるうちに、会員はだんだんにふえ、その上、お弟子さんのお弟子さんも加わることになり、明美会はいよいよ充実していった

そこで、会員が集まつて写生会

をするという方法がとられるようになつたのは昭和三年からである。

毎月諷訪山会館でモデルをつかつて始めていた油絵でのやり方と同じように、

スケッチをしたりクロッキーをしており。同年には、初めて神戸を離れて大阪のそごう百貨店二階ホールでの展覧会も試みたといふ。

三七年からの三年間には、五月と十一月に年に二度の展覧会を開くという意欲的な活動も続けられた。が、その後に一時、作品発表を休むということもあった。四三



ある集いその足あと

★ 明 美 会

のは昭和三二年のこと。当時は、個々で描いたものを集めて、年に一度の発表の場を持つ、という会のあり方だった。寺島紫明先生を慕つて集まっていたメンバーは十名。画家や学校の教師、サラリーマン等。

第一回の展覧会は、三三年十一月、元町ちぐさや画廊にて。以後

スケッチをしたりクロッキーをしており。同年には、初めて神戸を離れて大阪のそごう百貨店二階ホールでの展覧会も試みたといふ。

三七年からの三年間には、五月と十一月に年に二度の展覧会を開くという意欲的な活動も続けられた。が、その後に一時、作品発表を休むということもあった。四三

年の第十五回展のあと、十六回展まで三年間のブランクがある。常展会場にしてきた元町のちぐさや画廊が閉じられたための休止であつたとか。十六回展はセンターハー街、明美会はいよいよ充実していった

このような歴史を持つ明美会も現在メンバーは四〇名。一同が集まって描くことが不可能な状態になり、月に四、五日の練習日を決めて、いくつかのグループに分かれての作品研究会になつている。メンバーは、それぞれかなりのキャリアを持つ人が多く、画家としてその道で活躍している方も数名ある。学生や和服のよく似合う奥様達が、静かな教室でスケッチをとる鉛筆を走らせていく。

今ひとつ残念なことに、寺島紫明先生が、病氣療養中で会においでになれないことがある。完成した作品を持って批評をいただきに訪ねることにしているとか。一日も早い御回復がメンバーの望みであるのはいうまでもない。

写生会にお見えになる日が待たれる。神戸には少ない日本画の活動の一つとして、また、一番古い歴史をもつ会でもあること、ユニークなものにしていきたいと、紫明先生、メンバーともに意を合させて張切っている。

1973年

謹賀新年



●すべての服装計画を可能にする

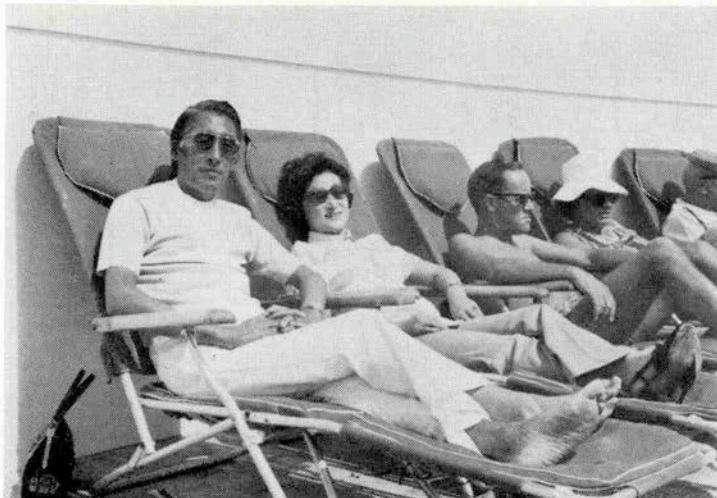
San Sakae

MOTOMACHI-2·KOBE·TEL 331-5121~2
SHINSAIBASHI-2·OSAKA·TEL 213-3378
LADIE'S MOTOMACHI-1·KOBE·TEL 331-7885

□ ずいそう □

キャンベラの船旅

楠本 恵吉（俳人）



キャンベラ号のデッキで 左筆者夫妻

私は今年（昭和47年）は珍しく海外へ出ること多い年であった。

そのうち船旅を四回もやつた。

はじめて船旅を味わったのはそう古いことではない。しかし一度、そのよろしさを満喫するとすっかりその醍醐味に魅せられてしまう。

いわゆる船キチにされてしまう。

プールから映画館、ショッピングセンター、銀行まで備えた“動くホテル”とでもいうべき船旅ののんびりムードを知った人にとって、たとえジャンボ・ジェットのファーストクラスであっても航空機の旅などちやんちやらおかしくってということになる。

船旅は“高速時代への反逆”だといわれているが、むしろ船旅は現代における最高のゼイタクだといえよう。

つまり航空機によるのは“旅行”で、船のそれは“旅”だといえよう。そこに豊かな旅という名の生活が展開するからである。

ところで日本の船キチにとってあこがれの船のひとつにキャンベラ号がある。

キャンベラ号は英國P&O社の豪華観光船で総トン数四五、七三一トン、全長約二七二m、巾三m、巡航速度二七・五ノット。船内には、客室レストラン、クラブ、バー、ゲーム場、プール、ダンスフロア、映画館、理容室、美容室、郵便局、診療所、ランドリーサービス、銀行とあって各デッキはエレベーターを使って昇降する。

キャンベラ号は、ややオーバーないいかたかもしないが、動くホテルというよりは、“動く一つの小さな町”といえないこともない。

このキャンベラ号は、今回の日本への寄港を最後、今後ニューヨークを拠点にしたカリブ海のクルーズ船にヘンシンしてしまうのである。

だからキャンベラ号の来日は今度が最後ということになる。

そこへ「ピープル友の会」という会から、キャンベラ号に乗ってみませんかという誘いを受けた。渡りに船とはこのことで、一も二もなくOKを出した。

日程は十月二十八日、神戸第四突堤ボートターミナル十九時乗船。二十九日七時出港。三十日八時長崎着、十九時長崎発。三十一日は東シナ海をひた走り、十一月一日香港着。十一月四日十五時五十分のJALで空路福岡というまことに手頃なスケジュールである。

そしてこの船には、豪州や英國、それに横浜、神戸で乗り込んだ日本人約二百名を含めて二千二百五十人が乗っている。十月十三日シドニーを出港、ラバウル、横浜を経て神戸に至り、長崎、香港に寄港の上、シドニーを経て終着港英國サザンブトンへは十二月十三日という長旅である。

ポートターミナルに横づけになつてあるキャンベラ号を見て驚いた。さすがに大きい。

キャビンに荷物を放り込んで、この“動く船”的探訪に出てみると、ぱったり、ひとりの美しい女性から声をかけられた。

「私、遠藤周作さん、よう知つとんのよ」と神戸弁である。

「神戸の方ですね」

「そうです」

とニッコリ。孔雀のような感じの女性である。

そしてあとで自分の部屋へ遊びに来ないかといわれる。神戸新聞の方たちも二、三見えるとのこと。部屋で着替えて彼女のキャビンへ行くと、お客様お二人はもう見えていた。彼女はキャンベラに関する限りなかなかの情報通。

この船には、もとオーストラリアの有名なジョッキーが乗船しており、そのひとは船が神戸へ着いても横浜へ着いても自分の船室を一步も出ず、朝からウイスキーを飲み、遊びたりの船旅を楽しんでいるのこと。

この船のファーストクラスは老外人夫婦が多くまるで“恍惚旅行”でつまらない。エコノミークラスの方がヤングが多くずっと面白い。バーもゴーゴークラブもあって、お値段はファーストより格安。

ファーストとエコノミーは厳重に仕切られているが、ファーストからエコノミーへ行く秘密の通路がひとつだけあるのを彼女は発見した。よろしければ今晚でもエコノミーのバーをご案内してもよいとのこと。もとより異論のあるはずはない。

では夕食後八時にファーストのメンバーでお目にかかりましようと約束したら、彼女は再び孔雀のように羽をひろげて立ち上り

「ほんなら、今晚ね」

とあでやかに笑つて我々を送り出した。

私はまるで白昼夢を見ているような思いでわがキャビンに戻り、ゆるやかなエンジンの軽い揺れに身を重ねながら、今度の船旅は楽しくなりそうだなアーティボケーツと考えていたのであつた。

抜錦や僕に拳手する波がしら

□れんさい隨想〈1〉

ブラジル

無宿

津高和一

（画家・大阪芸術大学教授）



僕が始めてブラジルに渡ったのは一九五九年だから、ちょうどいまから十五年前である。そのときは移民船の『あるぜんちな丸』で、ブラジルへ移住する人々と同船だった。

太平洋北方の大圈コースから南下して、パナマ運河を通過して大西洋を南進する四十五日の船旅だった。僕にしても始めての海外旅行ということ

であったが、同船する移住者たちの縁者たちの見送りで岸壁は盛大を極めた。

今生最後の別離ということもあって、舷側と岸壁の間では五色のテープが乱舞していた。

甲板で立っている僕の横で、老母がしきりに涙をふいていた情景を、あのときのこと回想するたびにいつも思い出す。涙雨というのだろう、移

民船の出帆にはきまつて雨が降るんです、と船員が後で話していたとおりにあの時も七月の豪雨がやつてきた。

雷鳴をともなつて暗たんとした空模様だったが、それが移住者たちの苦難の前途を暗示しているかのようでもあつた。

現在ではその移住船の定期便もなくなり、神戸の諫訪山下にあつた移民收容所（その後移住斡旋所と改名した）も閉鎖していまは建物も新しく塗り変わりこの建造物は別の用途に使用されている。石川達三の小説『蒼珉』の舞台の一端でもあつたがすでに歴史の流れの中で埋没してしまつていった。当時、サン・パウロ、ビエンナーレの日本側出品作家代表という名目で僕は渡航したのであるが普通では複雑だった当時の旅券交付も、そのため簡単に入手できたのである。旅費等は自己負担だつた。これも八方破れと、いつもの無手勝流でなんとか工面したのである。

元来、呑氣そうな僕も、その実内心は呑氣ではありえなかつたのである。だが、なんとかなるのではないか、という願望に似た変な可能性のようないものが実現するのではないかという予見をもつていた。いまからおもうと無茶な話だった。神戸元町の千艸屋画廊での個展収益が大半のあてだつたのである。

もともと僕は絵を売るということにかけては苦手中の苦手でもあつた。そのずっと以前にも絵を買うといつてくれた人を信用し、訪問したがその人々の社交辞令であったのか、また何かの都合であつたのか結局全部駄目だつたことがあつた。以来、僕は自分から自分の絵を買ってほしいという

ことを今後絶対にいわないことをかたく心にきめていたからである。

これは現在も依然として持続していることが、当時としてはなんとかならないと実現不可能で万事休したのである。それがどうにか片道旅費きちきちの状態にまで漕ぎ着けたのだから、無暴な冒險であると同時に、賭けのようなものだつたのである。

そのようにしてブラジルに渡つたわけだつたがその前々年にも作品がビエンナーレに選出され出品していたこともあつて、僕としては長旅の船中を利用して作品を作り、事情が許せば南米各地で個展開催をしてやろうというコンタンだつた。ところがその計画も結果は見事に不発に終つた。ということは、巨大で安定しているとおもつた『あるぜんちな丸』も船内ではかすかなエンゼンの微動が意外に邪魔になり創作などとうてい無理だつた思考をまとめるとか、イメージの展開を期待することなども無理だつた。キャンバスは張つたものの何一つとして作品も出来ず、凝固もしないままに過ぎてしまつたのである。

人間、ものごとにじかに直面してみないと解らないもので、赤道も過ぎ目的地との距離もだんだん短縮してくる頃になつて、どうにでもなれ、とその創作行為を中止してしまつた。

だが、またそれはその時で、さっぱりとしたもの気持ちを取り戻せたのだから、面白いものである。このようにして、リオ・デ・ジャネイロ港に着き、目的のサントスの最終港に到着上陸して、以後アラジル無宿者の第一歩がいよいよ始まつたというわけであつた。

□ インタビュー

安東聖空氏（藝術院会員）をたづねて

かな人生



昨年暮れ芸術員会員になり、正筆会会長として、日本の古典仮名、上代様に着眼し、その再興と普及に貢献している安東聖空氏。明治二十六年赤穂生れ。その老練な筆致、しなやかな墨跡は、安東聖空氏の人徳とその人を語る。県立第一高女の教師を一九年。その後書一筋の人生だ。多忙の折、東京から神戸に帰つて来られた翌日、垂水の閑静な安東邸をたづねた。

先生は神戸へはいつおいでになつたのですか。

安東 私は、今の赤穂市で生れたのですが、神戸へ出てきて尻池の方の小学校や須佐小学校に三年勤め、明治三十三年に県一高女ができて、そこで習字の先生として十九年勤務しました。新旧交代の時期で女の先生の権威が強くて今から思うと冷汗をかくようなことをよくしました。生徒にも毎日練習させ、名簿に付けるものだから、当時は生徒にも恨まれるし、父兄からも苦状がくるほどのスバルタ教育でしたが、卒業してからはいろいろな面で喜ばれました。やはり上手になりましたからね。

垂水に在住するようになつたのは大正十二年からです

が、当時は縁側に鶯、路上に赤とんぼ、夜は蛙がうるさいくらいいたのですが今考えると大変を違ひです。県

一高女をやめた後は、書一筋でルンペンですよ(笑)。困つたのは戦時中で本当に生活に困りました。書だけでもうやく忍んできたという状態でした。戦時中のことと比べるものおかしいですが、私の思うのに、文明文明といつているのは消費文明で、建設というものでなく物を作つて使い捨てるというのが現在です。どちらがいいのか一言で言えないけれど。昭和三十三年に書道をやっている者が中国から招待を受けて行つたんですが、さすが中國はやつていると思いました。北京の十三陵という所で働いている人や、廣東で水上生活をしている若い青年に会つた時、自分達の労働は子孫のためだといふんですね。国民は皆そう考えて仕事しているんです。それに向うには莫大な地下資源もあるし、国民のあり方、日本のあり方を考えさせられました。四十日間いた訳ですが、毛沢東の力は偉大ですね。

—— 書は、どなたがお好きですか。

安東 平安時代の紀貫之、藤原行成の書いたと伝わる古典仮名ですね。これだと気付き決めたのは、帝室の御物で藤原行成の和漢朗詠集です。当時この本が二十円で四苦八苦して搜

し出したんですが、お金が無くて、結局、漢方という新聞でモスリンの標語に応募したのが五等になつてその賞金二十円で買つたんです。それからは和漢朗詠集、首つ引きで独学して学びました。苦労しました。平仮名の「い」は、自分の基礎を作るために朗詠集の中から例えば「い」の字を集め、標準の字を決め、一万遍書きました。この一字一万遍を実施しようと思ったのは、ある婦人雑誌で、上野音楽学校のお琴のお師匠さんの一曲一万遍というのを読んだ時です。そうすると松風を聞いて琴を合わせると琴が鳴り出すというんです。私も一字一万遍と思ったのが、この世界に入つた第一の出発です。人間というものは、これという基礎を身に付け、しっかりとしたものを持っていれば、本当にそれだけでいいんです。

今まで書道をしていて悟ったことは、人生に関わりを持つれば、瞬間決定が一番大切だということです。私が筆に墨をつけ紙におろす、その瞬間がもうすでに決定になつている訳です。間違いの無い決定をするためにはやはり基礎がなくてはならない。そういうことを上代様の姿を持つてやっている訳です。仮名は複雑な漢字に比べると簡素です。複雑なものを簡素化したのだから、そこは余白となつて残る訳ですが、この余白の世界は実に

素晴らしいと思います。この日本の精神文化・余白の世界を日本人は大切にしなくてはいけないと思います。

もう一つ書をやっていて感じることは、人生には遊びがなくてはいけないってことです。まわりにも計算された利益得色とは全く無関係な遊び。遊びというのは、人間の心の最高の状態だと思います。私の書道も遊べるようになつたのはここ十年程ですが、それまでは飯の種で。(笑)、展覧会の作品を創作するとなるとやはり遊びではなくなるし、墨をするにも濃くしようと思つてするともう遊びではなくなる訳です。目的の無い遊び。それが人生には必要ですね。ただ遊びにも秩序は必要ですが——。これからなさりたいことは。

安東

見事な字というのは、私の理想では自分の心が素晴しくなつて、書いた書の中に誰でもが読みとれる文字であればいいと思っています。私は書は文字+Xだと思ってます。その他、表音文字の宿命である目立つ縦の線を、目立たないようにするためにはいかに仮名の構成を持つていかか、その仮名を現代風の横書きにするにはどうすればいいかということなどが、私の今後の課題ですね。



垂水の閑静な安東氏自庭にて



きものと細貨

あんがら庵

神戸

西 店/三宮センター街・電話 331-8836(代)

東 店/三宮センター街・電話 331-0629

三宮店/さんちかタウン・電話 391-4303

東京

銀座コア店/4階着物コア・電話573-5298(代)

渋谷東急店/5階和装名家街・電話462-3409(直)

日本橋東急店/4階和装名家街・電話211-0511(代)
(内線294)

池袋パルコ店/4階着物小路・電話987-0561(直)

あけまして
おめでとう
ございます

'73. 1. 1.



本年も〈おくりもの〉には
〈赤・白・黒〉のユーハイムを宣しく
お願ひ申し上げます。

ドイツ菓子

Furlein's

ユーハイム

本店 三宮 生田 神社前

T E L (331) 1694

三宮店 三宮大丸前旧市筋

T E L (331) 2101

さんちか店 三地下

スイーツタウン

T E L (391) 3539

心斎橋店 T E L 06 (252) 0925

神戸を住みよい街に

宮崎辰雄（神戸市長）
陳舜臣（作家）



新春の抱負を語る宮崎市長と陳舜臣氏

★神戸の良い環境づくりが今年の課題

陳 まず最初に今年の神戸市政に対する市長さんの抱負といつたものをお聞かせいただけませんでしょうか。

市長 この前、神戸を人間環境都市にするという宣言をしたのですが、その裏づけとして市民の環境を守る条例というのをつくったわけです。この条例を一つの軸にして神戸の良好な環境づくりに今年一年間全力をそそごうと、思っております。

環境づくりには三つあります。一つには生活環境それから、自然環境と文化環境のこの三つがあつて、まことに生活環境の中には従来の都市問題といわれるものがほとんど入ってくるわけです。たとえば上、下水道の問題にしても、住宅の問題にしても、ゴミや防災にしてもみなその中に入ってきたまでの都市問題の解決と同じだと考えていいんじゃないかと思います。

自然環境の保存については、一番の中心は緑化問題だと思うんです。ですから今グリーン作戦をやっているんですがこれを一層強化したいと思っています。それとともに自然環境の中には山の防災なんかも入ると思いますし、公園なんかの整備も進めていきたいと思つていてます。

次に文化環境の問題ですが、文化政策というものは実際にそれを進めていくこと自身に意味があるんですけども、我々行政機関は一つの指導方針などを示してやる



宮崎辰雄神戸市長

ものではないので、文化の環境面、これは主として施設の面、あるいは古文化の保存という面に力を入れ、文化事業の内容自体はやはりそれぞれの個々人のあるいはグループの独立性といったものを出して進んでもらう筋合のものだと、思います。文化環境づくりとしては今年の九月にいよいよ中央公会堂ができあがります。この市民ホールの大ホールと中ホール、それに昨年改造してつくった小ホールの三つを軸にしていろんな芸術活動や、集いを育てていきたいと思っています。それと同時に市でやれる文化活動はもちろんやります。たとえば今年の一月から南蛮美術をアメリカへ出すことにしまして、一月からニューヨークを初めとして三都市で南蛮美術の展示をやりますが、こういったことも文化活動の一環としてやっていきたいと思っています。

それから古文化財の保存については、住宅などの宅地開発で古文化財が壊されたりするようなことが多いですね。この間の高松塚古墳の発掘とか中国の長沙の古墳な

「智恵子の切り紙」つまり、高村光太郎の奥さんの智恵子夫人の切り紙のうち、「アジサイ」の切り紙を壁面にモザイクで出すようなことを考えているんです。

陳 そうですか。それは何色ですか。

市長 色は地がうすいピンクにちょっと近いような色ですね。それから鉢があって、それは黄色がかつた色です花自身は青い色です。神戸の市花をアジサイにしてますのでアジサイの壁画を出したいと思っています。

陳 それはいいですね。

市長 彫刻通りの彫刻についてはこれからだんだん増やしていくわけですが、この前ビエンナーレを須磨離宮公園で開きましたね。あの時に今度の彫刻はモニユメンタルなものを中心にしてやるということにしたんですが、そういった記念になるようなものをやって、それを彫刻通りにもつて配列したいのと、公会堂の前のロータリーなんかには萩原さんの裸婦を配したいと思っています。

どを見ますと、古文化財といふのはその国民の誇りを非常に高めますので私は今回はひとつ大がかりに市域内の埋蔵文化財等の調査をして、保存すべき地域といふのは保存する、記録にとどめる範囲でいふものは記録にとどめる、といつた見通しを今年はしつかりつけみたいとこう思っています。

具体的には公会堂ができると同時に、あの神戸駅から公会堂までの湊川神社の西の筋を彫刻通りにする。それから

その突きあたりが公会堂の壁になるのですが、これには

具体的には公会堂ができると同時に、あの神戸駅から公会堂までの湊川神社の西の筋を彫刻通りにする。それからその突きあたりが公会堂の壁になるのですが、これには

さらに中心街の改造計画を進めるにあたって、たとえ

ば東の方では国鉄六甲道の南側に市街地改造事業をやつてますが、そこにひとつ「労働者福祉センター」を設けたいと思っています。今、兵庫駅前の大好きな建物ができかかってますが、の中にも労働者福祉センターを入れてるんです。神戸駅前は神戸駅からメトロ神戸まで地下商店街をつくることになりました。新長田駅前にも23階建てのビルを造る予定で、これは今年の三月には着工できる予定です。このビルの中には文化活動のできる場やいろんなものを造る計画ですが、いろんなものを集めてくると人も集ってくるようになるでしょう。

陳 神戸は長い町ですから、三の宮だけが中心だというのはどうも淋しい気もしますからね。

市長 我々としてはいつも三の宮を中心ということになりがちだという批判もありますし、都心といふものはできるだけ分散させようと思って、神戸駅、新長田、六甲道というものを副都心にして、そこの駅舎の改築もやって

みたいと思っています。

陳 今度大倉山に文化ホールができれば、運営の仕方によつてはかなりの吸引力をもつてくるんじゃないですか

市長 ええ。そのためにはみんながそのホールに馴染みをもつといふことが大切なので、今度竣工したら10日間ほど無料開放してみんなに魅力のある催し物をやるつもりです。回りの環境もきれいに整備して、気軽に散歩や

デートもしてもらえるようにしたいんです。そうすると三の宮との間の散歩といったことも起こってくると思うんです。昔の元ブラのようなね。

陳 そうですね。そのぐらいは歩かなくては。週二日休みというようになれば歩く時間ができますからね。

環境さえよければこれからだんだん歩く時間は増えてくるでしょう。

市長 今までの余暇の過し方は、一日だけだと疲れないようについてすることで単にテレビを見るとか昼寝をするとか、野球を観るとかで消極的な観賞するという余暇の過し方が多かつたんですが、これから余暇がもっとと増えてきますと積極的に参加する余暇活動に移っていくと思うんです。そして我々はみんなが参加しやすいような環境を整えていくよう努力しなければいけないんじゃないのかと思ってるわけです。

陳 文化ホールのことですが、私も講演でよく地方に行くことがあるんですが、地方にはびっくりするほど大きな文化ホールがあるんですね。ところがそれが十分に活用されてないんですよ。この町にはこんないい文化ホールがあ



陳 氏 舜 臣 氏

るんだということを見せるだけで活用されてないケースが多いようです。そういうことにならないようひとつお願いしたいのです。結局運営の問題でしょうけどね

市長 私もその経験はあります。地方の町なんかでの市長会議にはよく文化ホールを使わせていただくんですが、日程表をみますと、飛び飛びに催し物があるだけで、それをみてもつたない話だなあと思いましてよ（笑）
陳 地方の中小都市は地価が安いのか、それとも力を誇

示するためか、何か飾り物といった感じが強いですね。まあ、建てるに越したことはないので、だんだん利用もされるんでしょうか。神戸の文化ホールの場合はあの周

りに吸引力をもつてくるという一つの使命がありますからね。ですから建ててからだんだんと、といふんでなしにかなりきめ細かくやっていただかないと（笑）

市長 まあ、神戸の場合は地方のホールのようにはならないと思います。といいますのも市の小ホールでも県のところへ引ちこむふうで、例へば二つともあります。

県民小屋場でもしてはいて、利用するのに数か月も待たないといけないぐらいなんですね。これはやはり人口に対して絶対量が足らないからなんですね。

陳 神戸の市立の図書館はいいですね。親切です。
市長 図書の蔵書数においては日本でも有数のものです。
陳 犬養道子さんが芦屋に来られた時よく利用されたらう。

市長 今年は図書館のブランチをもつとたくさんつくり
しくて感心してましたね。

たいと思っています。今まで図書所というのは戸籍をもらいに行ったり、税金を收めたりするだけのものでしたが、これからはそこが国民の生活のセンター、文

化のセンターとなるようなものにつくりあげていきたいと思つてゐるんです。

市長 そうですね、女将はトドを開けて入れるようなものであつてほしいですね。

こには舞台をそなえた小さなホールもつくったんです。

めてつくって、そこには老人憩いの家も図書館も体育館もホールもあり、みながそこへきて楽しめるようなものにしていきたいと思っています。

★期待されるこれからの中日と中国

市長 ええ。周恩来首相にもお会いしているのと話ををしてきましたので近いうちに実現するんではないかと思っています。

陳　まあ、向こうは何をするにしても時間をかけますからね。私なんかでも、はがゆいぐらいのことがありますしね。(笑)

市長 日本人みたいなせつかちな国民はちょっとないで
すよ。私らでもその場で決めないと満足できないタイプだ

陳私、帰りに広州へ行きましたね、他の所ですとみんな人民服を着てますので中国人、日本人、外国人はみな分けて

かるんですが、広州は三〇回度でみな上衣を脱いでるでしょ。シャツだけだから外見上区別がつかないんです。

それでオーバルの上から見ていると、向こうの人が「あれ日本人だよ!」っていうんです。見るとバスが来る」と走り出してるんですね。走ってる人は日本人だといふ

わけです（笑）。次バス来るんだから、中国人走らないよ」っていってるんです（笑）

とがりますね。これはたいしたものですよ。広州なんかで私達がしゃべったことはみな北京へ行ったら広州で

どんな話をしたか知ってるんですね」「非常に友好的な挨拶をいただきまして有難うございました」なんていいわ
れてびっくりすることありました（笑）

陳 情報は集めるんですが、決定は慎重に、慎重にといふ感じですね。

市長 向こうのベースにはまらないといかんですね。そうでないとイライラしてしまって（笑）しかしあんまりしているようでみな働くことはよく働きますね。

陳 自力更生ということをスローガンにしていますけれども、今は独善的になつてはいけないということを盛んに行なつてるようですね。何でも自分でできるといった思ひ上つた気持はいけないという教育をしてるようです。

そうなると日本との貿易面での関係がかなり深くでてくると思うんですよ。

市長 私が元来中国との親善を深めたいと考えたのは港の問題があつたからなんですよ。戦前は神戸が大陸貿易の中核のようなもので、あの地域全体の貿易量をみたら船の出入でも一四〇〇隻ぐらいありますし、神戸港の貿易量の二十八%ぐらい占めてたんです。今は二・八%ぐらいいなもので。それをもっと高めるということはできると思うんです。向こうは今おつしやつたように自力更生で、しかも軽工業品なんかは自国で生産しようという考え方ですね。しかし技術の導入とかプラント輸入といふのはやつておりますからそういうものは次第に増えていくでしよう。向こうも生活を高めようとして給料を一年間に10%ぐらい高めたいという考え方のようです。今全体では平均給与が60円ぐらいでしよう。150円かけたら、九〇〇円ぐらいですよ。

陳 物価もありますけど、大学卒の初任給で50円ぐらいですね。

市長 向こうの仲々手に入らない三種の神器というのはミシンと自転車とラジオですね。給与が上つてきますとそういうものの需要も増えてくるでしょうし、そうすると国内生産だけでは間に合わなくなつてくるでしょ。そうなつてくると時間はかかりますが日本からの輸出といふことも期待できるでしょうね。

結局、根本的には生活に必要な必需品というのを心配いらないのですが、工業製品とかぜいたく品を手に入

れるだけの資力がまだないということでしよう。

陳 そうですね。私は滞在中に「人民日报」の社説を見つました。それには「日用品の品質の向上につとめよ」という社説がでてました。人民日报の社説というのは国の最高方針ですから、生活面での豊かさをもつともてということなんでしょう。質的向上につとめるということです。

市長 食べ物は豊富ですね。

陳 そうですね。食べ物は土地によって違うですが僕の感じではどうも南と北がよかつたですね。中間の所はやはりどつちつかずですよ（笑）

市長 僕らやっぱり天津とか北京の食べ物が口にあいましたね。南へ行きますとお米がボロボロなんですよ。

陳 あれはね、北京の近くだけ日本の米に近い米がとれるんです。

市長 北京や天津ではお米が美味しいかったです。

陳 日本に近い米があるあたり一帯だけにあるんです。

市長 ああ、そうですか（笑）

陳 中国の料理はどんななぜいたくな料理でも伝統技術として伝えることになつてゐるんです。私聞いてみましたが料理のコンクールをいつも開くそうです。昔のやり方はそのまま残し、それに工夫を加えてコックのコンクールを定期的にやつてるようです。

市長 香港などへはよく豚を送つてゐるようですね。

陳 ええ、私もよく豚の貨物列車に会いました（笑）

市長 日本にもそのうち牛肉なんか来るようになるでしょうね。

陳 まあ、いずれにしても神戸と中国のことは昔から深い関係がありますし、神戸にも約八千人ぐらいの華僑がいますし、昨年は市の好意で健康保険が適用されることになり、私達としても感謝しております。今後とも中国との関係、そして在留華僑、これは友好の橋渡しのような存在ですからひとつよろしくお願ひいたしません。

経済ポケット ジャーナル



オリエンタルホテルでの懇親会

★ 第55回関西地区経済同友会員合同懇親会開催
テーマ「これから日本のあり方」
神戸経済同友会創立25周年を記念して「第55回関西地区経済同友会員合同懇親会」が十一月十七日午後一時半から神戸オリエンタルホテル二階の大広間で開

とソニーの会長井深大氏が基調講演を行ない、そのあと両講師をかこんで熱心な

話合いが続けられた。
日本経済はすでにGNP世界第一位という躍進を示し、豊かな社会を実現しつあるが、一面通貨問題を

始め、国際経済の緊張、公害などの環境問題、さらに国内経済の将来の見通しなど諸問題が山積し、流動的な国際政局と相まって重大な転回点に立っている時だけに、この懇親会の開催は大きな意味をもつたようである。

★ 本四架橋、今年度に三ヶ月同時着工と決まる

本州と四国を結ぶ本州四島一坂出、尾道—今治の三

かれた。
この日は西日本をはじめ名古屋、福井などからも約三百三十人に達する会員が参加し、今回のテーマ「これから日本経済のあり方」について、講師の日本興業銀行相談役中山素平氏

門ルートは神戸市垂水区舞



★ KOBEオフィスレディ★



駿河 光子(20歳)

株式会社 三星堂受付勤務

今月のO・Lは、お正月にふさわしく、着物姿がイカスではないかと思う？日本の女性であるところが彼女、中・高校と5年間テニスをやっていた。スポーツ・ウーマン。実は彼女、鹿児島育ち、でも卒業後神戸に来て2年、今では神戸っ子よりも神戸が好きとか。尼崎市在住 鹿児島県立垂水高校卒

北朝鮮の船が入港
十一月二十二日朝、朝鮮民主主義人民共和国の貨客船「万景峰号」(三、五百三十五・梁成哲船長ら七十四人乗り組み)が神戸港に初入港した。同船は日本と北朝鮮の間に就航している唯一の船で、これまで新潟



神戸に初入港した万景峰号

重量千四百㌧、新幹線は十六両編成の重さに耐えられる。
鉄道の場合、在来線では総主橋梁は長さ一、五八〇㍍か一、八八〇㍍の世界一のつり橋で建設される。

一キロ、六車線と四車線のほか、神戸市須磨区から鳴門市まで延長七九㍍の鉄道で海上部が二階建ての道路、主橋梁は長さ一、五八〇㍍か一、八八〇㍍の世界一のつり橋で建設される。
一キロ、六車線と四車線のほか、神戸市須磨区から鳴門市まで延長七九㍍の鉄道で海上部が二階建ての道路、主橋梁は長さ一、五八〇㍍か一、八八〇㍍の世界一のつり橋で建設される。
一キロ、六車線と四車線のほか、神戸市須磨区から鳴門市まで延長七九㍍の鉄道で海上部が二階建ての道路、主橋梁は長さ一、五八〇㍍か一、八八〇㍍の世界一のつり橋で建設される。
一キロ、六車線と四車線のほか、神戸市須磨区から鳴門市まで延長七九㍍の鉄道で海上部が二階建ての道路、主橋梁は長さ一、五八〇㍍か一、八八〇㍍の世界一のつり橋で建設される。
一キロ、六車線と四車線のほか、神戸市須磨区から鳴門市まで延長七九

清津間を帰國者を乗せて結び、両国間の貴重な橋渡し役をつとめており、在日朝鮮総連の人たちや日韓関係者約三千五百人の盛大な歓迎を受けた。また第七次祖国訪問団として九月末から北朝鮮に一時帰国していた在日朝鮮人四十五人が同船で帰国し、民族衣装をつけた多勢の在日朝鮮人が「マンセイ、マンセイ」を合唱し、祖国訪問から帰った人たちを出迎えた。

'73 謹賀新年

男の気品と格調、新しい年のスタート



O-SHIBATA
金 柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 神戸 341-0693
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106

謹賀新年'73



KOBE SHIRT

新しい春のよそいに

神戸シャツ

神戸／大丸前 TEL 331-2168
東京／東急・渋谷 TEL 462-3433
東急日本橋 TEL 211-0511 <219>
広島／広島福屋1F TEL 47-6111 <440>